

施策名	行政評価 施策体系	都市基盤の整備	施策 統括課	南部地域整備 課	氏名	蛸谷 常久
政策名	まちをつくる		施策 関係課	都市計画課、道路下水道課、国立駅周辺整備課		

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象にしているのか) \* 人や自然資源等

- ・市民
- ・事業者
- ・市内全域

意図(対象をどう変えるのか)

- ・地域特性にあった都市基盤が整備されている
- ・住みやすい環境をつくる

対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 人口	人
イ 事業者数	事業者
ウ 市域面積	km <sup>2</sup>
エ	

成果指標(意図の達成度の指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 各地域の特性にあった基盤整備がされていると思う市民の割合	%
イ 生活に必要な都市基盤が整備されており、住みやすい環境であると感じている市民の割合	%
ウ	
エ	
オ	

2 第2次基本計画期間(平成23~27年度)内における取組内容

体系	具体的な取組内容
地域特性にあった都市基盤の整備	土地区画整理事業の推進を図ります。国立駅周辺まちづくり事業の推進を図ります。(仮称)国立市南部地域整備基本計画に基づく基盤整備の推進を図ります。都市計画道路の整備を図ります。JR中央線連続立体交差事業の推進を図ります。
住みやすい環境の整備	地域特性を守るルール(地区計画・建築協定等)の推進を図ります。町名地番整理の推進を図ります。歩行環境の整備や老朽化した舗装改良整備を行います。道路台帳の整備を行います。

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値

単位		数値区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
対象指標	ア 人	見込み値									76,000	
		実績値	73,563	73,803	74,251	74,329	74,432	74,265				
	イ 事業者	見込み値				2,820						
		実績値	2630(H18)		2,820		2,820	2,820				
	ウ km <sup>2</sup>	見込み値							8.15	8.15	8.15	
実績値		8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15					
成果指標	ア %	成り行き値				64.7	64.7	64.7	64.7	64.7	64.7	
		目標値				65.0	66.0	67.0	68.0	69.0	70.0	
		実績値	70.3		64.7	63.1	63.3	64.0				
	基本計画における施策の目標設定の根拠			国立市市民意識調査において、都市基盤が整備されている富士見台地域の2009(平成21)年度の水準である70%を目指すこととし、目標値を設定しました。								
	イ %	成り行き値				67.8	67.8	67.8	67.8	67.8	67.8	
		目標値				68.0	69.0	69.0	70.0	71.0	71.0	
		実績値	61.3		67.8	65.4	66.5	68.6				
	基本計画における施策の目標設定の根拠			国立市市民意識調査において、北・東・中・西地域においてはJR中央線連続立体交差事業や都市計画道路3・4・10号線局所改良事業の完了により、住環境が向上し、80%の水準になると想定し、また、南部地域では城山南地区及び下新田地区の土地区画整理事業が完了することなどから、全市として71%の水準を目指すこととし、目標値を設定しました。								
	ウ	成り行き値										
		目標値										
		実績値										
	基本計画における施策の目標設定の根拠											
エ	成り行き値											
	目標値											
	実績値											
基本計画における施策の目標設定の根拠												
オ	成り行き値											
	目標値											
	実績値											
基本計画における施策の目標設定の根拠												
事務事業数		本数	36	33	33	33	36	36				
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円			25,100	41,800	143,680			
		都道府県支出金	千円	274,893	526,186	190,170	94,437	154,412	217,594			
		地方債	千円	1,555,000	418,000	218,000	147,000	226,000	155,100			
		その他	千円	152,469	180,525	171,306	218,551	63,716	127,463			
		一般財源	千円	534,420	258,562	111,681	158,905	178,028	227,759			
		事業費計(A)	千円	2,516,782	1,383,273	691,157	643,993	663,956	871,596	0	0	0
	人件費	延べ業務時間	時間	39,175	39,935	43,826	39,597	41,779	42,156			
	人件費計(B)	千円	188,773	191,913	203,100	190,485	205,895	203,580				
トータルコスト(A)+(B)		千円	2,705,555	1,575,186	894,257	834,478	869,851	1,075,176	0	0	0	

4 施策の現状

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?

JR中央線連続立体交差事業は進展しており、南部地域では東京都において都市計画道路3・3・2号線の事業が進められている。平成18年度から都市計画道路3・4・10号線の整備事業を実施している。国立駅周辺まちづくり基本計画に基づき、まちづくり会議等を開催し、事業推進している。平成19年度から国立市南部地域整備基本計画の策定を進めている。市内2か所(城山南地区、下新田地区)において、組合施行による土地区画整理事業を実施している。平成23年2月に国立市都市計画マスタープラン(改定版)を策定した。社会資本(道路施設)の老朽化が進行している。平成24年度に東京都が都市計画道路3・4・5号線の事業化に向け測量を実施した。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・南部地域の狭い道路の整備を進めるよう要望がある。
- ・甲州街道の歩道拡幅について陳情が出されている。
- ・国立駅周辺まちづくり事業の縮小を求める声がある。
- ・さくら通りの適切な維持管理について要望がある。
- ・社会資本(道路施設)の老朽化対策に取り組むべきとの要望がある。

5 24年度の評価結果

(1) 24年度行政経営方針の取組状況

24年度行政経営方針	取組状況
中央線の高架化事業が終盤へと向かい、また、南部地域における主要な道路軸が整備されつつある今、新たな都市基盤整備を行うという課題に直面している。国立駅周辺のまちづくりにおいて、平成24年度は立案のリミットの年となる。行政の力で後世に残る良いものをつくっていくという気概を持って、職員の英知をふり絞って取り組み、事業の推進に当たっては地権者・住民との合意形成、国立市商工会等関係機関との連携を密に図っていく。また、南部地域については、「国立市南部地域整備基本計画」(平成23年度策定予定)に基づいて、豊かな自然と歴史、良好な住環境といった地域の良さを活かした将来の土地利用を考慮しつつ、計画事業を進めていく。土地区画整理事業2地区については仕上げの段階に入っていく。市の指導・監督性を発揮して、地域特性を活かし、城山南地区は青柳崖線の緑と調和する緑豊かな低層住宅地区として住環境の形成を図り、下新田地区は、周辺環境に配慮した業務系土地利用の誘導も視野に入れた市街地の形成を図り整備を行っていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR中央線は市内全線が高架化され、国立駅部の2面3線化工事が完了し、渋滞の解消などの事業効果があらわれた。</li> <li>・城山南土地区画整理事業及び下新田土地区画整理事業が事業中であり、基盤整備は進められている。</li> <li>・北1丁目地区及び城山南地区の町名地番整理事業を進めている。</li> <li>・国立駅周辺まちづくり会議等を開催した。</li> <li>・国立市南部地域整備基本計画の策定に向け、庁内で細部の検討を進めている。</li> <li>・都市計画道路3・4・10号線は、南工区の用地取得を行った。</li> <li>・さくら通りの2車線化事業の基本設計を行った。</li> <li>・下新田地区地区計画を決定した。</li> </ul>

(2) 施策の成果実績把握と評価

成果指標目標値達成度(目標値と実績値との比較)

成果指標ア { 各地域の特性にあった基盤整備がされていると思う市民の割合 }

24年度目標値を達成  未達成 (  23年度実績値と比較し成果向上・維持  23年度実績値と比較し成果低下 )

成果指標イ { 生活に必要な都市基盤が整備されており、住みやすい環境であると感じている市民の割合 }

24年度目標値を達成  未達成 (  23年度実績値と比較し成果向上・維持  23年度実績値と比較し成果低下 )

成果指標ウ { }

24年度目標値を達成  未達成 (  23年度実績値と比較し成果向上・維持  23年度実績値と比較し成果低下 )

成果指標エ { }

24年度目標値を達成  未達成 (  23年度実績値と比較し成果向上・維持  23年度実績値と比較し成果低下 )

成果指標オ { }

24年度目標値を達成  未達成 (  23年度実績値と比較し成果向上・維持  23年度実績値と比較し成果低下 )

時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上) ~ E(かなり低下)

B:成果がどちらかと言えば向上した

他自治体との成果の比較 A(かなり高い) ~ E(かなり低い)

C:他自治体と比べてほぼ同水準である

背景として考えられること

- ・富士見台以北の整備が優先され、南部地域の整備が遅れている印象を住民は持っている。
- ・JR中央線の高架化や南部地域の道路整備等により、少しずつではあるが都市基盤整備は進んでいる。

(3) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等)

- ・JR中央線は市内全線が高架化され、国立駅部の2面3線化工事が完了し、渋滞の解消などの事業効果があらわれた。
- ・城山南土地区画整理事業及び下新田土地区画整理事業が事業中であり、基盤整備は進められている。
- ・国立駅周辺まちづくり会議等を開催した。
- ・国立市南部地域整備基本計画の策定に向け、既存計画の見直しを進めている。
- ・都市計画道路3・4・10号線は、南工区の用地取得を行った。
- ・さくら通りの2車線化事業の基本設計を行った。
- ・下新田地区地区計画を決定した。

6 施策の課題・今後の方向性

- ・事業実施のための財源確保。
- ・南部地域の基盤整備は、地元関係者等の合意形成を図る事が必要。
- ・国立駅周辺整備は、国立駅周辺まちづくり基本計画に基づき、社会資本整備総合交付金の申請に向け、関係機関等と協議を行い、申請に必要な計画書を作成する。
- ・下新田地区、未実施地区の町名地番整理を計画的に実施していく。
- ・さくら通りの2車線化については、交通管理者・東京都と調整しながら進めていく。